



令和5年



月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

■塗りつぶしの日は休館です。

### 『徳川家康の名宝』

久能山東照宮[協力]/小学館/702.1 ク

スペイン国王から贈られた洋時計、メガネ、鉛筆といった遺愛品や、古文書、筆づかい、愛刀、薬の調合などから、徳川家康の生涯、生き様に迫る。鼎談「神君家康公」を語る なぜ、久能山に葬るように遺言したのか?」も収録。

表紙に掲載されたドラマでも印象的な金陀美具足。白檀塗、歯朶と見比べて味わってみては…?



<p>『デジタルアーカイブの新展開』 時実象一/勉誠社/007.5 トキ</p> <p>文化財のデジタル化や、メディアのデジタルアーカイブ、3DやAIを始めとする革新的技術の動向など、具体的な事例を豊富な図とともに紹介。デジタルアーカイブの現状を解説する。</p>	<p>『いつか君に会ってほしい本』 田村文/河出書房新社/019.5 ム 青少年</p> <p>一冊の本との出会いが、人生を変えることがある。短いフレーズから、力をもらうこともある。中学生に向けて、おススメの本158冊を紹介する。共同通信社文芸記者による連載「本の世界へようこそ」を書籍化。</p>	<p>『SNSの哲学』 戸谷洋志/創元社/104 トヤ</p> <p>なぜ SNS で承認されたいのか? SNS にはどんな時間が流れているのか? SNS で人は連帯できるのか? 「リアルとオンラインのあいだ」を行き来しながら、SNS について哲学的に考察する。作品案内も掲載。</p>	<p>『石橋を叩けば渡れない。』 西堀栄三郎/生産性出版/159 ニシ</p> <p>幼少のころの環境や体験、学生時代の恩師や友人との交流、研究生活、隊長としての南極越冬生活やヒマラヤ登山…。様々な体験から生まれた著者の講演をまとめる。1972年初版から60刷を重ねた不朽の書の新装版。</p>
<p>『平安貴族の仕事と昇進』 井上幸治/吉川弘文館/210.3 イ</p> <p>みやびな印象の平安貴族。だが古記録からは、任官や昇進に奔走し連日政務に疲弊する過酷な日々が見えてくる。公卿と下級官人の人生サイクルの違いにも着目し、説話文学や日記を中心に平安貴族たちの日常を解き明かす。</p>	<p>『黒幕の日本史』 本郷和人/文藝春秋/281 ホ</p> <p>「ウラからオモテを操った人物」「重要な役割を果たしたが、陰に隠れた存在」を並べると、日本社会の力学、権力の仕組みが浮かび上がる。宇多天皇から西郷隆盛まで16人の「黒幕」を取り上げ、歴史の陰に光をあてる。</p>	<p>『私は男が大嫌い』 ポーリーヌ・アルマンジュ/花伝社/367.1 アル</p> <p>男嫌い(ミサンドリー)で何が悪い? 優しく、感じのいいフリをして時間とエネルギーを無駄にするのは、もう嫌だ! 女男平等担当大臣より検閲の警告を受けた、フランス発のフェミニズムエッセイ。</p>	<p>『地震・台風時に動けるガイド』 辻直美[監修]/メディカルケアサービス/369.3 ツシ</p> <p>数多くの災害現場をみてきた防災のプロが、要介護者・高齢者・家族など大事な人を護る防災を、自宅と施設に分けて提案。介護に役立つ防災術が満載。</p>
<p>『新しい部活の作り方』 アスリートキャリアセンター/徳間書店/375.1 アス</p> <p>部活動の「地域移行」にともなう指導者向けのバイブル。部活動を指導するために必要な組織づくりや夢の実現方法、体と心づくり、安全対策などを、各分野のトップが解説する。</p>	<p>『「複雑系」入門』 金重明/講談社/404 キム</p> <p>宇宙や生命の謎を解くには、複雑系の科学が必須であり、その誕生は近代科学を覆す「第2の科学革命」とも言われる。複雑系の科学はなぜ新しい科学なのか。文系の人にもわかるよう数式をほとんど使わずに平易に解説。</p>	<p>『身近な鳥のすごい巣』 鈴木まもる/イースト・プレス/488.1 ス</p> <p>鳥の巣を見れば、その鳥の奥深い生態や生存戦略、恐竜から鳥になった進化の過程などが見えてくる。鳥の巣の不思議で神秘的な面白さを、豊富なカラーイラストとともに、斬新な視点からユーモラスに解説する。</p>	<p>『まちがえる脳』 櫻井芳雄/岩波書店/491.3 サク</p> <p>脳はまちがえるという事実に焦点を当て、多くの事例を紹介。そして、脳内の信号伝達が本来不確かであること、間違えるからこそ新たなアイデアを創造し、高次機能を実現することを、研究成果をふまえて解説。</p>
<p>『師弟百景』 井上理津子/辰巳出版/502.1 イ</p> <p>庭師、染織家、刀匠、江戸切子職人、宮大工。いかにして若き弟子は職人の世界に飛び込み、師匠は技術と伝統をどう伝えたのか。師弟関係が紡ぐ16のライフストーリー。『なごみ』等掲載に書き下ろしを加えて書籍化。</p>	<p>『困りごと解決!家事ワザ262』 かおり/KADOKAWA/590 カ</p> <p>洗ってもくさいタオル、衣類の黄ばみ、油汚れでギトギトのグリル、フローリングのベタつき。そうじから洗濯、収納まで暮らしの悩みがスッと消える家事ワザを多数紹介。家庭内感染を防ぐワザ、防災グッズリストも収録。</p>	<p>『ずぼらガーデニング』 みゆき/KADOKAWA/629.7 ミ</p> <p>植物の世話はみんな一緒! 「植えっぱなしでOK」「水やりを気にしすぎない」「土の配合で悩まない」…。バラ、ラベンダーからミモザ、ユーカリまで育てられる、季節ごとのガーデニング作業&amp;ずぼらケアを紹介する。</p>	<p>『地域森林とフォレスター』 鈴木春彦/築地書館/651.1 ス</p> <p>地域森林管理の要となる森林に関わる事務系職員「フォレスター」。フォレスターの心構え・基礎技術、市町村林政の実際、市町村フォレスターの政策方針の設定などを、ケーススタディとともに解説する。</p>
<p>『優しいコミュニケーション』 村田和代/岩波書店/801 ムラ</p> <p>日常の会話やビジネス会議、オンラインの話し合いやリスクコミュニケーションを、社会言語学の視点から分析。コミュニケーションを成り立たせる条件や、誰も排除しない社会に向けた「人に優しい話し方・聞き方」とは?</p>	<p>『コミュカは「副詞」で決まる』 石黒圭/光文社/815.6 イシ</p> <p>「やっぱり」「せっかく」「おかげさまで」…。気持ちを効果的に伝える最強の助っ人「副詞」。コミュニケーション向上の鍵となる副詞について、その分類と機能から、使い方の勘所まで、社会・文化的背景も交えて解説する。</p>	<p>『目でみる方言』 岡部敬史/東京書籍/818 オカ</p> <p>鉛筆が尖っているのは、ときんときん? ぴんぴん? 日本各地の方言を取り上げ、そのことばが何を意味しているのか、どのような状態を表しているのかを、写真で掲載。方言にまつわるコラムも収録する。</p>	<p>『だけどぼくらはくじけない』 井上ひさし/新潮社/911.6 イ</p> <p>こころを揺さぶり、励まし、笑わせてくれる、井上ひさしの歌詞集。「ひょっこりひょうたん島」「ムーミン」から「吉里吉里国歌」「頭痛肩こり樋口一葉」などの劇中歌まで全63曲を収録。町田康によるエッセイ6篇も収録。</p>
<p>『天神さんが晴れなら』 澤田瞳子/徳間書店/914.6 サワ</p> <p>生まれ育ち、今も暮らす京都。食を楽しみ、旅に心惹かれ、美術・芸術を愛し、悠久の歴史に思いを馳せる。そして、それらすべてのことが物語を紡ぐ糧となる。直木賞作家が日常の風景を綴ったエッセイ集。</p>	<p>『27000冊ガーデン』 大崎梢/双葉社/F オ</p> <p>転落死体が発見された場所に本を落としてきてしまった。男子生徒から相談を受けた、県立高校の学校司書・星川駒子は、書店員・針谷敬斗と、生徒が巻き込まれた事件の解決に一役買うが…。『小説推理』連載に加筆修正。</p>	<p>『滋賀怪談 近江奇譚』 旭堂南湖/竹書房/F キヨ 文庫</p> <p>床下から首のない地蔵が…。譲り受けた茶道の釜に老侍の生首が…。漁をしていたら全身が透き通った死骸が…。じんわり怖いと不可思議が詰まった滋賀の恐怖譚集。講談口調で怪談を綴る「講談・村正の鎌」も掲載。</p>	<p>『赤い月の香り』 千早茜/集英社/F チハ</p> <p>古い洋館で「香り」のサロンを営む天才調香師・小川朔は、幼馴染みの探偵・新城と共に、依頼人の望む香りをオーダーメイドで作っていた。朝倉満は朔に勧誘され、そこで働くことになるが…。『小説すばる』連載を加筆修正。</p>

図書館のホームページで蔵書検索や本の予約ができます。また、登録された方にはメールで新着本をお知らせする「新着案内メール」を配信しています。

図書館ホームページ

行事予定は裏面へ

